

再来するテニスブーム！

～ 団塊世代の大量退職でテニス市場は拡大が続く見込み～

2006年 8月21日 (月)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: postbrics@yahoo.co.jp

～ 要 旨 ～

民間のテニスクラブは、企業による遊休地の活用が本格化する1970年代に入ってから急速に発展するようになった。70年代になると、石油ショックの影響で製造業の遊休地が増加すると同時に、所得水準の上昇によって人々のレジャー活動への支出意欲が大きく高まった。このため、製造業を中心に遊休地をテニスクラブなどスポーツ・レジャー産業施設として活用する動きが活発化したのである。

各地に相次いでテニスクラブが新設されたことから、それまで学生と一部の愛好家に限られていた競技人口は一気に拡大し、主婦やシニア層にまでその野が広がっていった。現在では、テニスは誰もが手軽に楽しむスポーツとしてすっかり定着し、多くの人々がテニスクラブを利用している。

80年代に大きなブームが訪れた後、テニスの競技人口は伸び悩んでいたが、近年では、再びテニスの人気が高まってきている。とくに、2004年にテレビドラマ「エースをねらえ！」が放送されてから、テニスブームに拍車がかかった。

このようなブームに乗って、テニスクラブの利用者数や売上高も順調に拡大している。特定サービス産業実態調査報告によれば、全国のテニスクラブの年間利用者数は、2001年調査の798万4632人から2004年には1025万3338人へと、3年間で28.4%の増加となった。また、全国のテニスクラブの売上高は、2001年調査の1178.3億円（うちテニス場部門は468.2億円）から2004年には1611.7億円（同551.6億円）へと、3年間で36.8%の増加となった。テニスのラケットなどの関連用品の売上高も伸びているという。

今後は、団塊世代の大量退職に伴いテニスを楽しむ高齢層が増えるとみられるほか、健康ブームで女性のテニス人口も増加するとみられ、テニスクラブや関連用品の市場は拡大傾向で推移する可能性が高い。団塊世代については、「パドルテニス」など、テニスをモデルにした新しいスポーツもブームになりつつある。